

大谷学会

◇研究発表会

十月二十四日(月)午後一時～

於 響流館メディアアホール
少女雑誌におけるシェイクスピアと宝塚少女歌劇―坪内士行を中心に―

本学准教授 三浦誉史加
五臺山佛光寺の唐代の経幢

本学准教授 松浦典弘
知的活動支援ツールとしてのインフォ

メーション・ビジュアライゼーション
本学准教授 酒井恵光

日野町事件・再審請求における証人供述の分析
本学教授 脇中 洋

真宗総合研究所

◇委員会

七月十三日(水)午後〇時二十分～

於 博綜館第五会議室

・私立大学研究ブランディング事業
について

・研究事業の自己点検・評価に関する
ガイドラインについて

・二〇一六年度東京分室「指定研究」
について

・報告事項
「寺本婉雅旧蔵資料追加目録」(西蔵
文献研究班)について

・その他
七月二十八日(木)午後三時～

於 博綜館第五会議室
「私立大学研究ブランディング事業」
について

・その他
十月十日(月)午後一時～

於 博綜館第四会議室
「研究紀要」第三十四号の編集につい
て

・その他
十二月五日(月)午後一時～

於 博綜館第五会議室
・紀要投稿論文査読結果について

・客員研究員の委嘱について
・その他

◇二〇一六年度第一回研究員総会
七月二十八日(木)午後五時五分～

於 響流館マルチメディア演習室
Big Valley Cafe

真宗学会

◇第二回例会

七月十三日(水)午後二時四十分～

於 尋源講堂
「内観」と「内感」
―金子大栄と清沢満之―

本学大学院博士後期課程第三学年
東 真行

◇大会

十月二十六日(水)午後三時～
於 尋源講堂

欲生・願生・往生
―『大無量寿経』出現の意義―

本学教授 加来雄之
信の宗教と浄土の思想

京都大学大学院教授 氣多雅子

◇真宗学科第二学年

比叡山登山・フィールドワーク

十月二十九日(土)

午前九時集合、午後二時比叡山延暦寺

根本中堂前で解散。

真宗学演習Ⅱの授業の一環として第二学年の学生と担当教員が参加。

◇第三回例会

十一月二日(水)午後二時四十分

於 尋源講堂

真実行

—法然から親鸞への相承とその展開

本学大学院博士後期課程第二学年

後藤 海

◇修士論文中間発表会

十一月九日(水)午後二時四十分

於 二号館二二〇一教室

現生正定聚

唯除の意義—親鸞の視座を通して—

長尾良見 廣田 至

阿弥陀仏と諸仏—『教行信証』「行巻」を中心として—

『教行信証』における時の問題—時機純

熟と信の一念—

海 理在

◇第四回例会

十二月七日(水)午後二時四十分

於 尋源講堂

真人社の僧伽観

—『真人』第十三号を中心として—
本学大学院博士後期課程第二学年

井上泰之

◇卒業論文中間発表会

十二月八日(木)午後六時

於 二号館二三〇一教室

現生正定聚

浄土とはどういう場所か

一楽ゼミ 寺本 光

真宗における五逆を犯した者と正法を

誹謗した者の位置

木越ゼミ 新川 楓

『現代における死の受容』清沢満之の生

涯から 井上ゼミ 伊藤 智

『自己とは何ぞや』—清沢が出遇った自

己— 三木ゼミ 門間晃樹

◇第五回例会

十二月十四日(水)午後二時四十分

於 尋源講堂

『安楽集』の『涅槃経』引文について

本学大学院博士後期課程第一学年

三池大地

◇第六回例会

十二月二十一日(水)

午後二時四十分

於 尋源講堂

『佛説観無量寿経』を読む—教育者「釈尊」—
本学准教授 大城邦義

仏 教 学 会

◇研究発表例会

十一月二十一日(月)

午後四時二十分

於 響流館マルチメディア演習室

源信の菩提心観

本学教授 ロバート・ローズ

パリ語文獻における「目覚める」と

「目覚めさせる」について

本学任期制助教 稲葉維摩

◇史跡踏査

十一月二十八日(月)

訪問先・石山寺（滋賀県大津市）

◇公開講演会

十二月八日（木）午後四時二十分～

於 響流館メディアホール

初期大乘經典誕生の背景

京都文教大学学長 平岡 聡

宗 教 学 会

◇第三十六回「大拙忌」記念公開講演会

七月七日（木）午後四時二十分～

於 響流館メディアホール

分別と無分別

―而して『無分別の分別』妙

京都大学名誉教授 上田閑照

社 会 学 会

◇社会学科公開講義

十二月七日（水）午後一時～

於 二号館二三〇一教室

再犯防止に向けた矯正施設の取り組み

京都拘置所所長 岡本昌之

国史学会・日本仏教史学会

◇大谷大学日本史の会大会・総会

七月三十日（土）午後一時～

於 響流館メディアホール

・研究発表（午後一時十分）

小豆島の文化財―「地域らしさ」を誇りに―

本校における社会系科目―私なりの取り組み―

取り組み―

徳川美術館よもやま話―作品は如何に

伝えられてきたのか― 四辻秀紀

・記念講演（午後三時二十五分）

親鸞と恵信尼結婚の意味 草野顕之

・総会（午後五時）

・懇親会（午後五時二十分）

於 一号館学生談話室 Big Valley Cafe

◇大谷大学日本史の会十月例会

十月八日（土）午後二時～

於 響流館演習室三

美濃地域における本願寺教団の発達

老泉 量

◇大谷大学日本史の会十一月例会

十一月二十六日（土）午後二時～

於 博綜館第四会議室

『浄土教報』における地震記事―濃尾地震を中心にして―

長谷川雄高

文 藝 学 会

◇公開講演会

七月七日（木）午後一時～

於 響流館メディアホール

『石清水物語』の背景

本学任期制助教 関本真乃

中国古代の歌謡と女性

神戸大学教授 釜谷武志

◇『文藝論叢』第八十七号発行

（十月A5判八十八ページ）

『清浄法行経』の研究―七寺本『清浄法

行経』の「翻刻」と「訓読」をめぐる

て― 野村卓美

《翻訳》おもしろさについての導入研究

（前篇）― MURRAY S. DAVIS, That's

Interesting!: Towards a Phenomenology of

Sociology and a Sociology of

Phenomenology (訳稿)― 内海透雄

大秦一浩
現代北京語に関する調査研究―中国下
ラマ「裸婚時代」第三集 Chapter

03-05～03-09の訳注―
渡部 洋

早川智美

王 秀梅

三鬼丈知

富山久代

『満洲国文学』に関する新資料解説―

『偽滿時期文学作品叢書』全10冊を中
心に―
李 青

『今昔物語集』巻六と巻七の構成につい
て
金 偉
呉 彦

国文学会

◇講演会及び先師法要

十月八日(土)午後二時

於 尋源講堂

講演会

『平家物語』と『太平記』のことば

―仏教語使用の様相―

本学教授 池田敬子

先師法要

導師 石橋義秀

中国文学会

◇卒業論文中間発表会

十月二十六日(水)午後一時

於 響流館マルチメディア演習室

李白、杜甫、高適が互いに送りあつた

詩の相手に対する思いについて

服部航平

王維の輞川集について

安井祐樹

搜神記における「夢」の役割

安田朱里

李白の出身について

李 源

三国志の呉の対外政策

立野雄一

十二月十三日(火)午後二時四十分

於 響流館マルチメディア演習室

『文章軌範』を読む伊藤仁齋・源氏物

語』を読む本居宣長―中國古文と日

本近世散文精神の誕生
同志社大学教授 副島一郎

西洋文学研究会

◇『西洋文学研究』第三十六号発行
(七月二十五日)

〈目次〉

サン＝テグジュペリ作品における子ど
もの喪失 藤田義孝

歪められたロマン主義的「子ども」―

シュティフターの『電気石』におけ

る少女の「障がい」について

藤原美沙

Ellen Glasgow の戦略的 sisterhood ―

Allen Tate と H. L. Mencken との書簡か

ら 種子田香

◇年次大会

九月十六日(金)午後二時

於 博綜館第四会議室

①総会

②研究発表(午後三時)

世界文学の条件―『ロミオとジュリエ

ット』と『星の王子さま』

藤田義孝

幻想・教育・社会化―シュティフター

の『電気石』における受け皿としての「子ども」
藤原美沙

越境するヒロインー William Wells

Brown の Cloak; or The President's

Daughter における Passing と異性装

種子田香

英文学会

◇年次大会

十二月八日(木) 午後四時二十分

於 慶聞館K四一三教室

研究発表

American Garden と19世紀的想像力

ー エドガー・アラン・ポーの “The

Landscape Garden” を読むー

池末陽子

卒業論文中間発表

司会 宮下侑也

①ステイブーン・キング『キャリア』

について 小川裕樹

②ジェイン・オースティン『分別と多

感』について 大久保愛

国語教育学会

◇第四回研究大会

十二月三日(土) 午後二時

於 五号館五一〇三教室

日々の教育実践から学んだこと

ー 『大きなかぶ』の授業を中心にー

京都市公立小学校教諭 前川瑠美

『話すこと・聞くこと』の指導法

ー 話し合いの活動に焦点をあててー

京都府公立小学校教諭 高橋菜由

『協同学習』を活かした授業実践

ー 『言語活動の重視』をキーワード

としてー

神戸大学附属小学校教諭 高橋由衣

人文情報学科

◇外部講師をお招きしての

人文情報学演習Ⅰの授業

七月十一日(月)

「21世紀型若人の生き甲斐と幸福論」と

題した外部講師による講義を行った。

◇オープンキャンパスでの

模擬授業の実施

七月十七日(日)

判つてくれなからこそ伝えたい

采翠 晃

八月七日(日)

PC紙芝居 山本貴子

八月二十一日(日)

あなたの欲しいものは?ーこころを知

る情報技術 高橋 真

九月十八日(日)

たった40分でわかるIoTビジネス 上田敏樹

◇ITパスポート試験合格講座の開催

八月一日(月)～四日(木)

学生が備えておくべきITに関する基

礎的な知識を証明する国家試験である

ITパスポート試験合格のための集中

講座を開催し、第二学年から第四学年

の約二十名が参加した。

◇人文情報学科サロン2016

十月二日(日)

第一部 講演会

文楽（人形浄瑠璃）の人形遣いである吉田襄二郎氏より、人形を操るための情報の伝え方など、文楽の魅力についてご講演いただいた。

また、山本先生からは、文字や音声情報が太古から時空を超越して現在に至った歴史についての講演があった。

第二部 懇親会

新装オープンした食堂を会場として、卒業生と在学生との交流を図った。

また、卒業生には、新しい校舎・慶問館もご覧いただき、大きく変わりつつある大谷大学の今を感じていただいた。

◇卒業論文中間発表会

十月十七日（月）

十一月二十四日（木）

より実りある内容とするため、卒業論文中間発表会を各々のゼミの時間に実施した。第四学年だけではなく、卒論のテーマを今後決める第三学年、第三学年からのゼミを選択する第二学年の参加も得て、多くの質問が出された。

◇ミニ・オープンキャンパスでの

慶問館の紹介

情報表現学演習2の履修学生がプロジェクト型アクティブ・ラーニングの成果を日本で一番新しい大学キャンパスの紹介と題して発表した。

具体的には、動画制作とポスター制作の二チームが撮影機材、編集ソフト、スマホなどを駆使し、日本一新しい校舎・慶問館を紹介するプロジェクトを立ち上げ、この成果をプレゼンした。

◇ワークショップ

「人文情報学研究の最前線2016」
十二月十七日（土）

午後〇時五十五分

於 響流館マルチメディア演習室

Session 1（座長：柴田みゆき）

契丹（遼）時代文化財のデジタルアーカイブについて

カイクについて

武田和哉（大谷大学）

大谷大学図書館所蔵稀観チベット語文

献の研究―シャクリンパ著『プラサ

ンナバダー』注―

研究序説―
三宅伸一郎（大谷大学）

Thuplen Gawa（大谷大学）

Session 2（座長：三宅伸一郎）

霧の中の初期チベット論理学

福田洋一（大谷大学）

PCによる系図表示の現状と課題

柴田みゆき（大谷大学）

生田敦司（大谷大学）

Session 3（座長：池田佳和）

共感覚的知覚の進化的基盤

高橋 真（大谷大学）

例示を用いた図ベースの情報伝達

酒井恵光（大谷大学）

Session 4（座長：酒井恵光）

IoT時代におけるウェアラブル端末

と学習支援システムのシナジー

上田敏樹（大谷大学）

池田佳和（大谷大学）

Engineering the future―社会の根本的ニ

ーズにこたえるメタエンジニアリン

グー

鈴木 浩（日本経済大学）

池田佳和（大谷大学）

短期仏教科

◇第二学年卒業研究中間発表一夜研修会
九月十五日(木)～十六日(金)

於 湖西キャンパスセミナーハウス
第二学年の一夜研修会を開催。十一月三十日の卒業研究の提出に向けて、中間発表会と、教員を交えての懇談会を行った。

◇第二学年卒業研究中間報告会(第二回)
十月二十七日(木)

於 学内
第二学年の卒業研究に関する中間報告会(第二回)を開催。十一月三十日の卒業研究の提出に向けて、第二回目の中間報告を行った。

幼児教育保育科

◇一泊研修会

七月二日(土)～三日(日)

於 南山城村自然の家
第一学年、第二学年合同で一泊研修会

を開催した。保育者としての企画力を身につけるため、第二学年の学生がレクリエーション内容について企画運営を担当した。また二日目には第一学年が「学びの発見」の成果を発表した。

◇第三十一回幼教フェスティバル
十二月十八日(日)午前十時三十分～

於 講堂
今回のテーマは「勇々一歩踏み出す勇氣」。大谷幼稚園の園児や近隣の子どもたちを招待し、第二学年クラスごとの総合表現の舞台に加え、吹奏楽演奏、二学年合同のゼミごとでの出し物、合唱を発表。会場入口には、第一学年が製作した手作りおもちゃ等が置かれ、子どもたちに実際に遊んでもらう経験もできた。

学生会員 投稿規程

1. 本学会学生会員で、『大谷学報』に論文の掲載を希望するものは、指導教員の推薦状を添えて投稿できる（一六〇〇〇字以内とする）。
2. 投稿された論文は、審査を経て採否が決定される。
3. 論文の審査は、編集委員および編集委員が選任委嘱する審査委員（若干名）によって行われる。
4. 審査の結果は左記の通りとし、②③の場合には、投稿者にその理由を通知する。
 - ① 採用
 - ② 条件付き採用（修正がなされた場合採用）
 - ③ 不採用
5. この規程は、『大谷学報』第八十九卷第一号より適用される。